



## 「鉄道旅へ発車オーライ！」



飛行機、車など様々な移動手段が発達した現在ですが、今なお鉄道の魅力は色褪せることはありません。時にはいつもの通勤、通学とは違う列車に乗って日常を離れ、流れる景色を楽しみながら旅情を味わってみませんか。災害や戦争から立ち上がって復興をとげた鉄道、鉄道愛にあふれた人たちの本などを紹介します。それでは、本を片手に出発進行！

(原真由美)



池澤夏樹『キップをなくして』角川文庫 2009

「キップをなくすと駅から出られなくなる」って、あれほどママに言われていたのに、改札で失敗に気づいたイタルは、同じような子どもたちと東京駅で暮らすことに。気がかりな仲間のひとり、ミンちゃんから生きることを考えさせられた少年のひと夏の物語。

富手淳『線路はつながった』新潮社 2014

2011年3月11日、あの日、再起不能と思われた被害を受けながら3年を経て全線復旧を果たした三陸鉄道。まさに復興のシンボルです。全国からの支援、地元の足として残したいという住民の意識、そして三鉄従業員の熱い情熱があったからこそ。これからもエールを送り続けたい！



酒井順子・関川夏央・原武史『鉄道旅へ行ってきました』講談社 2010

鉄道をこよなく愛する男女三人が、乗って、喋って、食べて、また乗って……。北陸本線を一日で巡り、駅そばを次々に平らげる企画には驚き！ 関川夏央の「汽車旅は、たのしく呑気に、笑いながら」のモットーに共感。大人の遠足です。



### 〈復興をとげた鉄道〉

堀川恵子『チンチン電車と女学生』日本評論社 2005

西川美和『その日東京駅五時二十五分発』新潮文庫 2015

原武史『震災と鉄道』朝日新書 2011

### 〈豪華列車 VS ローカル線〉

嵐山光三郎『日本全国ローカル線おいしい旅』講談社現代新書 2004

水戸岡鋭治『鉄道デザインの心 世にないものをつくる闘い』日経BP社 2015

